

岡田寛の香川新音楽事情 17

香川日唄協会の確かな試み③



ターゲットは「芸術文化」

「オーストリア香川友好協会」設立計画当初、県下には日仏協会、日独協会、日英協会などが既に活動していた。ボク達はいわばこの業界(？)では最後発。準備は当然、他の規約や現況を調べることから始まった。流石に多彩な人脈を誇る浅井、池田清一郎の両仕掛人。的確なアドバイスは見事、忽ちフットワークのいいキーパーソンを七人選んで会合を重ねた。名づけて

オーストリア香川友好協会設立総会



志度音楽ホール少年少女合唱団

「ウィーン会議」。七人の侍は二人のほか中條一郎、細川啓二、西谷賢二、猪股伸夫、それにボクという顔ぶれ。



祝辞を述べるウゴヴィッチ大使



中條一郎さん

けた三越高松店のベテラン総務担当責任者。これまでの実に丁寧で正確な事務処理には感謝の言葉もない。細川は国分寺に本店を構えるウィーンケーキカフェの店「シカ」社長。正面の広い壁面はマリア・テレジア・イエロー・カラー。彼自身毎年ウィーンに出かけ、ハプスブルクの女帝が愛したあの色合いが出るまで何と全壁三度も塗り替えたという挿話は有名だ。西谷はアーキテクト、ウィーン工科大学に留学し、早稲田の大学院を卒業した変わり種。オットー・ワグナーを始め、世紀末の優れた建築が集まるウィーンへの思い入れは並大抵でない。かくてウィーン会議二十回。会議

発会式には駐日大使も



細川啓二さん

は踊る、されど進んだ、のだ。所詮、ビジネスとは無縁の趣味の集いは龍頭蛇尾に終わることが多いという。あまり費用をかけず、会員が気軽に参加、お酒で楽しくやや非日常的、ホンモノ志向、他では真似できない魅力的なプラン、これらをいかに継続的に企画出来るか。ボク達は、あらためて、ウィーンのみが誇る世界で最高の「芸術文化」、これをターゲット、と深く確信するのだった。



西谷賢二さん

か、一九九七年五月二十二日、「オーストリア香川友好協会」の発会式を兼ねた第一回総会には、駐日オーストリア特命全權大使マルティン・ウゴヴィッチ夫妻も出席、願ってもないスタートとなった。さすがに芸術文化大国、ボク達はゴトの重大さに標を正した。聞けば何とこの偶然、大使はアイゼンシュタットの生まれ、協会顧問でもある赤澤志度町長と姉妹都市話が大きいに弾んだのはいうまでもない。式典に花を添えたのは志度音楽ホール少年少女合唱団。前年の三月、アイゼンシュタット公演で大成功を収めたばかり。ウゴヴィッチ夫妻の激賞を受け「美しく青きドナウ」を爽やかに歌い上げた。加えて翌二十三日には、ウィーンフィル首席「オペラ・ファンタジー」の夕べが初の協会協賛行事として華やかに披露された。

帰京した大使から、あなたの協会は日本では十五番目のオーストリアとの友好クラブです、と丁寧な礼状が届き、宛先はオーストリア・ソサエティ・イン・カガワとあった。やはりオーストリア二国相手に香川では失礼なのだ。

やがてボク達は名称を「香川日唄協会」と改めることにした。「エンジョイ芸術文化を目指すボク達のウィーン会議は続く。これまでの、そしてこれからの幾つかの試みを紹介しよう。(文中敬称略)

7人の侍、ウィーン会議、重ねる

米泊 800 山 333 ばら 333 志 122 庄田 122